

平成26年度 附属学校研究支援経費による研究成果概要報告書

報告者氏名・所属	金澤 恵美 北海道教育大学附属札幌小・中学校ふじのめ学級
研究期間	平成26年 4月 ～ 平成28年 3月
プロジェクトの名称	教科別の指導「体育科」(ボール運動系)の指導内容の開発
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に○を付す こと	○金澤恵美・附属札幌小特別支援・総括主任 田外真也・附属札幌中特別支援・主任 中嶋秀一・附属札幌小特別支援・学校責任者 松田岳大・附属札幌小特別支援・教諭 平山一馬・附属札幌小特別支援・教諭 熊谷鮎乃・附属札幌中特別支援・教諭 本間尚史・附属札幌中特別支援・教諭 山口 翔・附属札幌中特別支援・教諭 安井友康・北海道教育大学・教授 三浦 哲・北海道教育大学・教授 齋藤真善・北海道教育大学・准教授
成 果 の 概 要	
<p>本学級児童生徒は知的な障がいとともに、運動面においてもバランスや協調運動における発達の課題があるものが多い。また、帰宅後に外で遊ぶ時間が少なく、体を動かす経験も少ない。ボールを使った集団で行う運動、簡単なルールのあるゲーム的要素の強い運動などを通して、友達と楽しく体を動かしたり、勝敗等の目的に向かって活動したりする授業等を設定してきた。小学校では2学期に室内サッカーに取り組んだ。3人1組(攻2守1)になってゴールまでボールを運ぶ活動を取り入れたことで、友達の動きに合わせて自分の動く場所、ボールを蹴る方向、強さを子どもたちが自然と学ぶことができた。また、児童によって「ボールを追う、蹴る」「ゴールに向かって蹴る」「ボールの行き先に合わせて動く」「周りの動きを見て自分の動きを考えて取り組む」など、ねらいが様々であるが、活動を複線化することでどの児童にとっても充実した活動になり、実際にサッカーの技術も向上した。この運動が3学期に取り組んだ室内ホッケーでも「ゴールへ向かう」「同じチーム(相手チーム)の動きを見る」などチームで行う運動として一人一人の動きに変容がみられた。実際に児童生徒は技能の向上を体で感じているようで休み時間にもサッカー、ホッケー、野球など友達を誘って遊ぶことも増えている。</p> <p>平成27年度中学校でサッカー、ハンドボールの実践を実施する予定である。その実践も踏まえて小中一貫した体育科の指導内容の検討を行っていくこととする。</p>	
成 果 の 公 表 の 状 況	
ほくとくネットなどを通じた情報公開	
教育現場で活用可能な分野等	
体育科分野の授業作りで利用可能 特別支援教育の授業作りで利用可能	
配付可能な資料の有無	特になし
ダウンロード可能なドキュメント	特になし
問い合わせ先	責任者：金澤恵美 電 話：011-778-0473 FAX : 011-778-0477 mail : sap-fujinome@s.hokkyodai.ac.jp